

千葉 ライフ・ライン ニュースレター No.94

【発行】千葉県テレビ伝道協力会
〒260-0021 千葉市中央区新宿2-8-2
CCCビル 「千葉ライフ・ライン係」
TEL 043-247-3058 FAX 043-247-3072
E-mail: chiba@life-line.tv
ホームページ <http://chiba.life-line.tv/>
郵便振替：00110-8-579669

【協力】財団法人 太平洋放送協会 (PBA)
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台
2-1 OCCビル
TEL 03-3295-4921 FAX 03-3233-2650
E-mail: mail@pba-net.com
ホームページ <http://www.pba-net.com>
でんわ世の光 03-3291-9061

「福音の土着化、賛美の土着化」

単立 高津キリスト教会 牧師 小林政和

今年はプロテスタント宣教150年になる。ペルーが開国求め、キリシタン禁教高札撤去し、宣教師が来日を許されて150年になるが、未だに、キリスト教は外国の宗教と考える人が少なくない。キリスト教は日本に土着しているとは言えないのである。宗教改革の目標に信仰のみ、聖書のみを掲げたルターの大きな業績は、自国語のドイツ語で聖書を読めるように翻訳したことである。それと併せて、賛美歌を自国語で作って歌った事である。福音の土着化、賛美の土着化を試みたのである。老人ホームへクリスマスキャロルに行った時に、賛美歌の中に文部省唱歌の一曲「ふるさと」を入れて歌った。この歌を聴いた人の中に、幼かりし頃の自分のイメージに重なって涙を流される方がおられた。カラオケは歌好きな人に、ストレス解消に大いに用いられている。カラオケは日本が始めて、今や世界に通じる言葉になっているのである。「演歌は日本の心だよ」と演歌に心酔している団塊の世代がいれば、外国からの歌など多様性を好む若者もいる。「歌はおらが県の民謡が一番だよ」と言う人もいる。賛美も当時の言葉、当地の言葉で歌えれば、心に素直に入りやすく定着するのではないかと思う。千語を語るより、賛美には心の隔たりを取り除き、主のリアリティを感じさせる力がある。

この度、演歌フレンズが演歌調でありながら、主を賛美する「幸い小唄」「賛美しようたら、賛美しよう」（ピアノコウジ氏作詞・編曲）を歌い始めた。福音が日本人の心に届くようにと、新しい一つの試みである。「ライフ・ライン」で放送してもらったこともあって、最近、地味であるが、30くらいの教会から招かれ、行って一緒に歌い踊る中に、高年齢層だけでなく、若い方など幅広い年齢層にレスポンスがあるそうである。千葉ライフ・ラインも、未信者の方がイエスを信じるきっかけになればと、福音番組が放映されている。同目的で、賛美の中に、主に出会い、イエスを信じる者が起こされることを期待する。Iコリント9・22「すべての人に、すべてのものとなりました。それは何とかして、幾人かでも救うためです。福音のためなら、何でもする」。福音の土着化のために、賛美アプローチしてみませんか。その一つに夏祭・盆踊りに向けて集会を企画したら如何でしょう。演歌フレンズを招き、主を賛美する演歌を歌い、一緒に踊れば、そこに初めて来た人も神に心が向いているかもしれない。

お茶の間に福音！

毎週土曜朝7時は、**千葉テレビ「ライフ・ライン」**でお楽しみ下さい。